

第二号議案 2026 年度事業計画

1. 肝臓病に関する相談事業

電話相談事業は東京肝臓友の会の基幹事業である。年間の電話相談の内容が、厚労省研究班、肝炎医療コーディネーター養成研修会、医学部の講義、行政への要請、製薬企業の講演内容等に反映される唯一無二の貴重なデータとなっている。

今後も患者の現状を発信していくために相談件数の上昇を目指すことが重要となってくる。このため2025年度に完結できなかった電話相談認知のためのキャンペーンを引き続き実施する。リーフレット、ポスターを全国72の拠点病院に20部から30部ずつ配布、通院患者の目に触れる場所への設置をお願いする。拠点病院以外の専門医療機関へのリーフレット配布も行う。

2026年度は肝がん、B型肝炎、自己免疫性肝疾患に加え、MASHの患者への相談会等を対面で実施する。

2. 肝臓病に関する調査・研究事業

(1) 厚労省研究班

◆2024年度から2026年度まで

- ① 金沢大学金子周一研究代表「ネットワーク社会における地域の特性に応じた肝疾患診療連携体制構築に資する研究」 米澤
- ② 東京大学医科学研究所四柳宏研究代表「様々な状況での肝炎ウイルス感染予防・重症化・再活性化予防の方策に資する研究」 米澤

◆2026年度から2028年度まで

- ③ 長崎医療センター八橋弘研究代表「様々な生活の場における肝炎患者等の人権を尊重するための啓発・学び等に資する研究」 米澤
- ④ ロコモディカル総合研究所江口有一郎研究代表「肝疾患へのトータルケアに資する人材育成とその活動支援に関する研究」 米澤
- ⑤ 帝京大学医学部 田中篤研究代表「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」 古川

(2) 学会での聴講、登壇など

6月18、19日に新潟で開催される「第62回日本肝臓学会総会」特別企画4-1メディカルスタッフセッション「患者さんとともに歩む未来の肝臓医療」において6名の患者が発表を行う。(その他肝炎医療Co7名、医師5名)J自己免疫のアンケート調査をまとめたダイジェスト版を配布予定。総合討論の司会も担当する。学会長と研究班長の理解の元、これまでにない患者中心の学会発表となる予定(資料6)また、学会内で「学会ラヂオ」というラジオ企画も実施予定。

(3) 東京肝臓友の会アンケートの実施

昨年度実施できなかった、会員の実態を知るため今年度中に会員対象のアンケート調査を行う。調査結果は次年度以降の学会、研究班において発表する予定。

3. 肝臓病に関する啓発・支援活動

(1) 講師派遣

引き続き肝疾患拠点病院における肝炎コーディネーター養成講座、製薬メーカー、保健所等における肝臓病患者自身の講演は、患者の状況を発信できる重要な場として、積極的に参加する。

(2) 「大人のラヂオ」

2017年3月から始まったラジオ放送（ラジオNIKKEI「大人のラヂオ」）は、2026年度に10周年を迎える。2024年度から行っている番組内での書籍プレゼント企画を充実させ、さらに多くのリスナーの入会を目指す。また、月1回のラジオ放送は肝炎患者だけでなく一般の方も聴取、啓発の場として今後も検査や治療の必要性を医師と共に訴えていく。

(3) 啓発キャンペーン

2026年にはHCV未治療患者、B型肝炎未通院の患者、脂肪肝の患者対象に啓発を実施する。

4. 肝臓病に関する情報提供事業

(1) 会報「東京肝臓のひろば」

発行 年6回(偶数月28日)

発行部数 1,700部

対象(全国) 会員、専門医等医療関係者、厚労省、東京都など行政関係者、都議、国会議員等、その他

掲載予定 271号(4月号) 板倉潤先生(講演録)

272号(6月号) 田中篤先生(講演録)

(2) ホームページ

更新 随時

担当 スタッフ

内容 講演会、交流会、相談会等行事案内、共催、後援のイベント告知、治験情報

ホームページに有益な情報を掲載することで、一時的ではあるがアクセス数が上昇し、

ひいては東京肝臓友の会の認知や入会にもつながることがわかったので、今年度は治験情報だけでなく、患者が必要としている情報の掲載に努める。

(3) リーフレット

対面の講演会や相談会でのリーフレット配布、拠点病院、専門医療機関への配布を行う。

(4) 治療用小冊子

作成後 10 年となる「治療用冊子」は治療内容の修正を目的とし新たな冊子作成を検討。

5. 肝臓病医療講演会開催事業

目的

会員、一般市民に対し、肝臓病の正しい知識、最新の治療情報の普及、
入会者促進（新聞等での告知）

2026 年度計画

- ・ 7 月 26 日（日） 第 14 回世界日本肝炎デーフォーラム、対面による開催
大阪公立大学大学院医学研究科 特任教授 河田則文先生
- ・ 9 月 27 日（日） 宮川庚子記念研究財団主催 東京大学医学部附属委病院 消化器内科 建
石良介 准教授による医療講演、相談会
- ・ 10 月 18 日（日） 宮川庚子記念研究財団主催 東京大学大学院新領域創成科学研究科四柳 宏
先生による相談会
- ・ **11 月 「医療講演会・相談会」**
- ・ **3 月 自己免疫性肝疾患の医療講演会・相談会**

2026 年度は引き続き、東京都の委託事業として「肝臓病患者向け医療講演会実施」を受託、都の支援により年間 2 回の医療講演会と相談会を開催する。対面開催の予定。講演会実施の際はメディアを活用し告知を充実させ、集客、入会につなげる。

6. 他団体との交流・協力・共同の取り組み

(1) 地域患者会支援

地域患者会の状況で支援内容を検討、予算措置も行う。2026 年度も講演会支援事業を継続する。

(2) 日肝協との連携・協働

日肝協代表幹事に、川田理事長、米澤事務局長、常任幹事に野田副理事長、幹事に安齋氏、萩部理事、会計 山田理事、監査に窪田理事、岡田氏を派遣する。在京の日肝協役員は国会ロビー活動等に積極的に参加し、肝炎デーフォーラムの企画、準備はすべて会で行う。

(3) 東京都との関係

東京都の「ウイルス肝炎対策協議会」の委員に米澤事務局長を派遣。また、例年通り 2027 年度東京都予算に対する要望書を提出する。協議会前の都との意見交換会に参加、協力する。

東京都障害者福祉会館への相談員派遣を継続する。

(4) ウイルス肝炎検査促進部

区市町村の肝炎ウイルス検査受診数を区市町村において公開することが決定、その結果を検討しさらに受診者数の向上を目指す。

(5) 他団体活動

B 型肝炎訴訟東京原告団、薬害肝炎訴訟東京原告団、各弁護士と東京肝臓友の会との 3 団体による要請活動や勉強会等を引き続き継続。（「東京肝炎フォーラム」）

7. その他の活動

(1) 部会活動

「B 型肝炎部会」「PBC・AIH・PSC 部会」「肝がん部会」「NASH 部会」ではそれぞれ交流会、医療講演会、相談会など対面と Web を活用し実施。

「PBC・AIH・PSC 部会」では、入会者対象に研究班が作成した最新のガイドブックを引き続き配布予定。また、前年に引き続き「全国患者ネットワーク構築」をスタートさせる。

自己免疫の東北ブロックについては、自主的な運営の確立を目指す。大阪ブロックについては講演会支援、交流会の実施を検討する。

(2) 入会促進活動

2025 年度は引き続き医療講演会等でリーフレットを活用し、積極的に東京肝臓友の会の紹介や入会促進活動を行う。また、全国の肝疾患拠点病院、専門医療機関や都の保健センターなどへのリーフレット、新たなポスターの配布など広報活動にも注力する。

ウイルスを排除して退会を希望する会員を対象とした「サポート会員制度」は、退会連絡の際勧めており増加を目指す。1 年に 1 回サポート会員に配布する「東京肝臓友の会だより」の内容を充実させる。